第 29 回日本フィッション・トラック研究会実施報告

大平　寛人

第 29 回日本フィッション・トラック研究会は，2005 年 1 月 22 日（土），23 日（日）に，愛知教育大学・自然科学棟 5F・地学系理科実験室で行われた．研究会には下記の 30 名の出席があり，14 件の一般講演と 1 件のポスター発表が用意され，カイネティクスや機器分析の先端的研究から，層序学やテクトニクス，地熱・鉱床などの応用分野まで幅広く充実した内容であった．特別講演とエクスカーションは，仲井豊先生（元愛教大学長）の案内により，岡崎市周辺の領家帯花崗岩の産状と石材としての利用について企画された．宿舎は，静穏な環境にある愛教大近くのアイプラザ刈谷で,深夜まで FT のホットな話題について情報を交換し親睦を深めることができた．会場の準備や運営については愛知教育大学の星　博幸会員と学生の皆さんにご協力いただき滞りなく進めることができた．

図 1　FT 研究会の様子（於；愛知教育大学）

出席者（所属）：

星　博幸，伊賀原司，柚原奈央，田嶋香奈，高柳龍司，早川佳奈，寺西由希（愛教大）；仲井　豊（元愛教大）；西村　進（京都自然史研究所）；岩野英樹（京都 FT）；笹尾英嗣，金沢淳志（サイクル機構東濃）；本多照幸，北原照央（武蔵工大）；竹内圭史（産総研）；山田隆二（防災科研）；伊藤久敏（電中研）；谷口友規（㈱セレス）；長谷部徳子，荒武康治，伊藤一充，伊藤健太郎（金沢大）；渡辺公一郎，荒木俊貴（九大）；田上高広，山田国見，松浦俊輔（京都大）；大平寛人，永井淳也，三角　寿（島根大）

I. 総会（1 月 22 日 17：00～18：00）の報告

1. 国際 FT ワークショップの開催地状況報告

これらは既に FT ニュースレター，地質学会ニュースに掲載されているが，伊藤会員，長谷部会員よりあらためて報告いただいた．（フィッショントラックニュースレター17 号 P63-65；地質学会ニュース誌，7 巻（No.9,）P9-10 参照）．

次回ワークショップ開催地についてはアメリカ，中国，イギリスからの立候補があり，最終的にアメリカ(Jackson Hole）で開催される件．ゴールドシュミット会議がメルボルンで開催される件．その他中国の FT 人口の増加と実験室設備の充実について報告があっ

た．2012 年開催についてはアジアでの開催の可能性もあるが不透明な部分があるとのこと．コミッティーのメンバーである田上会員からは，ICOG が 98 年以降，吸収消滅してしまった点への危惧も含めた詳しい報告があった．今後の動向の分析については田上会員が中心となり，アイデアと情報を発信していただくことになった．

2．FT 研究会 30 周年の企画について

Web での情報発信の充実とその宣伝やこれまでの活動を総括できるような企画として地質学会でブースを出すという意見があった．また地質学会等で何らかのセッションをもてないかという意見があった．さらに出版物の企画，手法から応用についても意見が出された．この件については負担にならない企画を委員の間で検討することになった．

3．原子炉問題

京大原子炉の停止と再開について西村会員より報告があった．京大原子炉は 2005 年度共同利用運転の後 2 年間停止すること．その間高濃縮から低濃縮のシリサイド燃料への切替を行い，その後出力 1MW で 10 年間の運転を行う計画であること．休止の 2 年間は日本原子力研究所（東京大学窓口）による代替利用か可能であること．

日本原子力研究所（東海研）の状況について本多会員より報告があった．東海研の JRR4（3.5MW）では 350KW，100KW の低出力運転での利用が可能であること．また利用充実へ向けた取り組みが必要であること．東海研での医療照射充実への取り組みについても紹介があった．

4．ニュースレター関係，編集新体制と次号発行予定

2004 年 10 月上旬に山田編集代表の尽力のおかげでニュースレターNo.17 を発送することができたことの確認．

次期編集体制は長谷部会員を代表として進めていただくことになった．なお研究会後，投稿要領，編集スタイルは前回のものを踏襲する点をあわせて，論説・総説・研究ノートへの積極的な投稿を行うよう，長谷部会員より案内があった．

5．会計報告

大平より簡単な収支状況報告があった．会計監査：伊藤久敏会員．

II 懇親会

アイプラザ内のカフェダイニング，ラフィーコで 21 名の皆さんに参加いただき，大変楽しい懇親会であった．場所を移して深夜まで親睦を深めることができた．この中で，今年度の 30 回 FT 研究会の開催場所について，筑波や草津温泉の研究施設という意見があった．

III エクスカーション（12 月 23 日 13：00～17：00）

仲井豊先生の案内で，26 名の参加者の皆さんと岡崎市周辺の石材採掘現場を訪れた．領

家帯の花崗岩類の産状から，採掘・利用法までを勉強することができた．山仙石材㈱さんにはコーヒーを用意していただき，石材業の歴史を含め岡崎青石の性質を詳しく説明いただいた．

以上

図２　山仙石材㈱での集合写真